

“Create the future with *n*”



# 2021年3月期第3四半期 決算説明会資料

証券コード 6306

**日工株式会社**

常務取締役 財務本部長 藤井 博

2021年2月25日

□本説明会資料において当社事業のアスファルトプラントを『AP』、コンクリートプラントを『BP』と表記致します。

2020年度 3Q決算ハイライト	▶ P. 3-4
トピックス（3Q累計の受注高）（3Q累計の受注残高）	▶ P. 5-6
トピックス（AP全メーカー出荷推移）（AP市場環境）	▶ P. 7-8
株主還元方針、株主優待	▶ P. 9-10
2020年度3Q決算説明	▶ P. 11-22
参考資料	▶ P. 23-27
会社情報	▶ P. 28-32

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により  
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。



・受注高前年同期比+21.0%増、受注残、前年同期比+29.0%増  
(全事業部門、前年同期比増)

→P.12 上期業績ハイライト (1)

P.5 トピックス (3Q累計の受注高)、P.6 トピックス (3Q末受注残高)



・モバイルプラント製品前年同期 (4-12月) 226百万円 (7台) →627百万円 (19台)

→P.19 その他事業



・3Q単体前年同期比 売上高減少。営業利益で▲96百万円の赤字  
(3Q (10-12月) AP・BPともに売上物件が少なかったことが影響  
今年度は4QにAP・BPともに売上物件が集中)



・新型コロナウイルスの影響による海外事業売上減少→営業利益減少  
→タイ・・・入国5ヶ月遅れ (10月) のスタート  
さらに12月にバンコクと隣県でクラスターが連続して発生し営業活動に  
制限がかかる

**3Qは、赤字となるも受注増により受注残が大きく積み上がる**

このスライドは、決算ハイライトをポジティブな面とネガティブな面を2点ずつまとめたものです

- ポジティブな面の1点目は受注高が前年同期比+21%と大幅に増えたことです  
これに伴い受注残高も前年同期比+29.0%になりました

もう1点は、前年度より本格稼働したモバイルプラント事業が軌道に乗ってきたことで  
今年度は9ヶ月間で19台販売となり、627百万円となりました

- 一方、ネガティブな面の1点目は、第3四半期3ヶ月間の営業利益が▲96百万円の赤字となったことです。例年第3四半期は売上が少ないのですが、今期は例年以上に少ない結果となりました。しかし、今期は例年以上に第4四半期に集中していますので、特に心配はしていません

もう1点は、新型コロナウイルスの海外事業に関する影響が続いていることです。今年度から新たにスタートしたタイでは日本人駐在員の赴任が予定より5ヶ月遅れ事業の開始が実質10月になりました

## 2020年度 3Q決算ハイライト（2）



### 2020年度 3Q累計実績

(単位：百万円)

3Q（4-12月）	実績	対前年同期	対前年増減率
売上高	24,632	+70	+0.3%
営業利益	904	▲136	▲13.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	966	▲4	▲0.4%
受注高	28,893	+5,016	+21.0%

- ▶ AP事業売上：新型コロナウイルスの影響により海外減となるものの、国内製品、メンテナンス増により対前年同期比+2.5%
- ▶ BP事業売上：国内製品売上減、メンテナンス増となり対前年同期比▲1.6%
- ▶ 受注高は、全セグメント対前年同期比増

### 事業環境

#### AP事業

20年度3Q（4-12月）	実績（万トン）	対前年同期比
合材製造量	2,879	101.9%
新規合材	763	102.8%
再生合材	2,116	101.6%

再生合材比率 73.5%

資料出所：（一社）日本アスファルト合材協会

#### BP事業

20年度3Q（4-12月）	実績（万m）	対前年同期比
生コンクリート出荷量	6,002	95.4%

資料出所：全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

4

- 第3四半期累計の売上高は24,632百万円とほぼ前年並みでしたが、営業利益は904百万円と前年対比▲136百万円、四半期純利益はほぼ前年並みの966百万円となりました。受注は非常に好調で、前年比+5,016百万円の28,893百万円となりました
- 事業環境の指標として、APは合材の出荷量、BPは生コンの出荷量を記載しています。アスファルト合材の出荷量は前年同期比101.6%と前年より若干ですが増加しました。生コンは前年同期比95.4%と若干減少しました。東京オリンピックの影響が大きいと思われる

## トピックス（3Q累計の受注高）



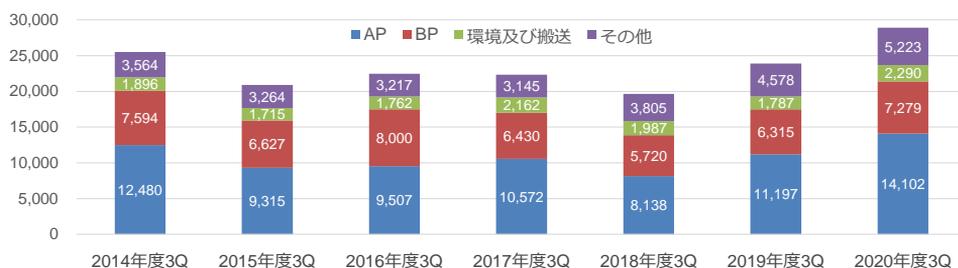
### 3Q推移

（単位：百万円）

	2014年度3Q	2015年度3Q	2016年度3Q	2017年度3Q	2018年度3Q	2019年度3Q	2020年度3Q	対前年同期比
AP	12,480	9,315	9,507	10,572	8,137	11,197	14,102	+25.9%
BP	7,594	6,627	8,000	6,430	5,720	6,315	7,279	+15.2%
環境及び搬送	1,896	1,715	1,762	2,162	1,987	1,787	2,290	+28.1%
その他	3,564	3,264	3,217	3,145	3,805	4,578	5,223	+14.1%
計	25,533	20,920	22,486	22,309	19,650	23,877	28,894	+21.0%

### 通期推移

	2014年度累計	2015年度累計	2016年度累計	2017年度累計	2018年度累計	2019年度累計	2020年度予想	対前年同期比
AP	17,114	16,553	16,718	17,182	18,884	16,133	19,000	+17.8%
BP	10,069	9,517	9,966	9,066	8,438	9,478	11,000	+16.1%
環境及び搬送	2,711	2,796	3,203	2,948	2,773	2,402	2,600	+8.3%
その他	4,606	4,203	4,248	4,420	5,008	5,903	6,000	+1.6%
計	34,501	33,069	34,134	33,617	35,104	33,916	38,600	+13.8%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

5

1つ目のトピックスとして受注の状況を説明します

□受注高は3Qまでで全体で28,894百万円となりました

参考に過去6期分を掲載しましたので見比べていただくと、今期が相対的に3Qまでの受注が好調であることがわかります。セグメント毎の受注額も、全てのセグメントで前年同期比2桁の増となりました

通期では、いまのところ全体で386億円と前年同期比+13.8%と予想しています。これも過去6期と比較して最も多い受注額になります

## トピックス（3Q末受注残高）



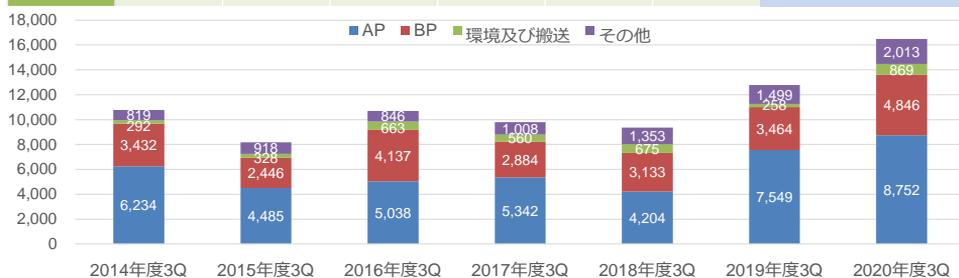
### 3Q推移

（単位：百万円）

	2014年度3Q	2015年度3Q	2016年度3Q	2017年度3Q	2018年度3Q	2019年度3Q	2020年度3Q	対前年同期比
AP	6,234	4,485	5,038	5,342	4,204	7,549	8,752	15.9%
BP	3,432	2,446	4,137	2,884	3,133	3,464	4,846	39.9%
環境及び搬送	292	328	663	560	675	258	869	236.9%
その他	819	918	846	1,008	1,353	1,499	2,013	34.3%
計	10,777	8,177	10,684	9,793	9,364	12,770	16,480	29.1%

### 通期推移

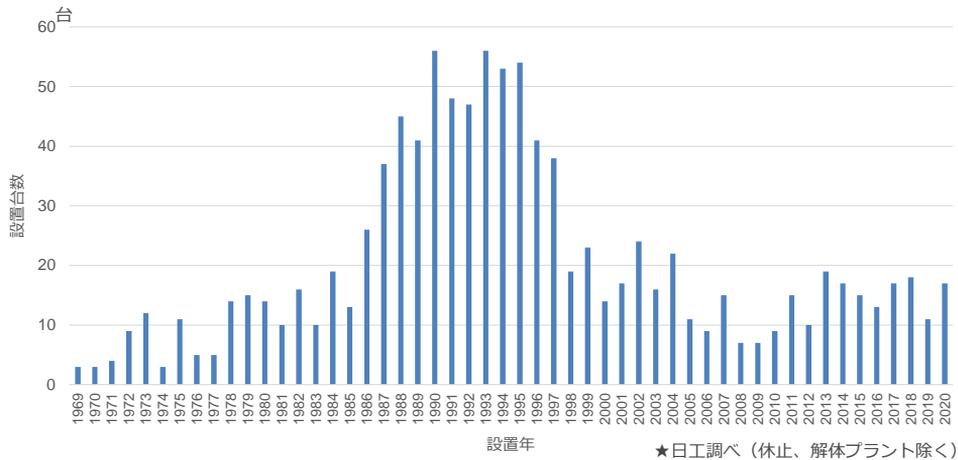
	2014年度累計	2015年度累計	2016年度累計	2017年度累計	2018年度累計	2019年度累計	2020年度予想	対前年同期比
AP	6,728	6,028	6,357	6,359	8,809	7,424	7,423	▲0.0%
BP	3,467	2,717	3,350	2,895	3,440	3,760	5,560	+47.9%
環境及び搬送	309	816	1,371	387	385	152	552	+263.2%
その他	535	437	551	491	821	883	783	▲11.3%
計	11,039	9,997	11,629	10,132	13,455	12,219	14,318	+17.2%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

6

- 受注残高も好調で3Q末まで16,480百万円で前年同期比+29.1%とりました。全てのセグメントで注残が積み上がっています
- 今期末で受注残高は14,300百万円と予想しています。APは、ほぼ前年同期並みの7,400百万円となりますが、BPと搬送環境は大幅に増加、その他は微減となる見込みです



	旧プラント設置年											
	1968-70	71-75	76-80	81-85	86-90	91-95	96-00	01-05	06-10	11-15	16-20	不明
2017年出荷内訳	1	2	0	2	4	4	0	1	0	0	0	2
2018年出荷内訳	0	3	2	1	2	4	2	3	0	0	0	1
2019年出荷内訳	1	1	1	1	2	2	0	1	0	0	0	2
2020年出荷内訳	1	1	1	2	6	4	1	0	0	0	0	0

2つ目のトピックスとして、AP設置年度と近年更新投資をされているプラントがいつ設置されたのかをまとめました

- 棒グラフは1969年から2020年までの各年ごとの1年間に日本国内で出荷された全メーカーのAPの出荷台数です

下の表は、2020年を含めた直近4年間の各1年間に建て替えられたプラントがいつ建てられたものの更新投資であったかということを示しています。最近ではほとんど新設のプラントがないので、ほぼSB（スクラップ&ビルド）されたものです

グラフを見てみると1987年から1997年の11年間で非常に高い山になっています。この11年間で約500台のプラントが出荷されました

- 現在、プラントの耐用年数が非常に延びており、早く更新されるお客様、長く使われるお客様などいますので一概には何年とは言えませんが、30年から50年でSBが行われている前提で見ていただければと思います
- 2020年出荷のものについてまだ顕著な形に現れていませんが、86年から90年に出荷されたもののSBが6台、91年から95年のものが4台、それ以前のものも少数ずつですがあります
- 今後87年から97年に投資されたプラントが徐々に更新投資の時期に入ると考えられます。日本全体のアスファルト合材の出荷量は減少傾向にあり、プラントすべてがSBされるとは言えないのですが一気に半分になることは無いと思われ、今後しばらくの間は、87年から97年に投資されたものの更新投資の高い需要が続くと考えています

● APユーザーの上期受注残、3Qの商況

- 2Q時受注残：  
NIPPO 前年同期比+3.1%、前田道路 +11.8%、日本道路 +22%、  
東亜道路工業 +11%、世紀東急工業 +21%、三井住建道路 +9%  
（出所：「会社四季報」2021年1集新春号（東洋経済新報社刊））  
→受注残増の要因は工事の大型化・長納期化
- 第3四半期、材料安により大半の上場大手道路会社の営業利益は増加

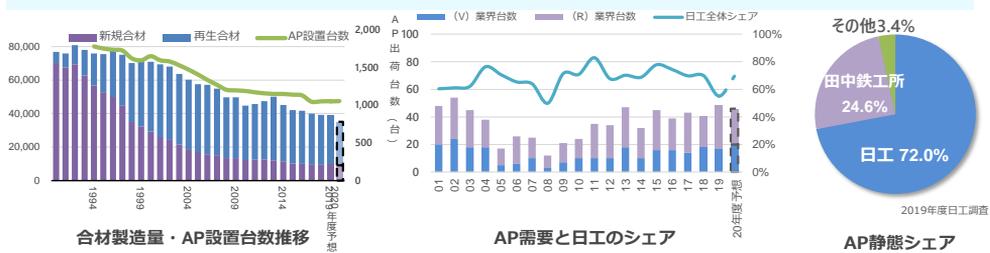


リサイクルを中心とした中型AP  
VP-II

● 脱炭素化社会への取り組み

- 中温化アスファルト合材に対応すべくフォームド装置を開発  
10台納入実績（合材製造温度：現状170℃⇒140℃程度へ。）  
CO2削減率14%（100%バージン合材とした場合）
- カーボンニュートラル燃料対応のための粉体バイオマスバーナー開発完了
- アンモニア、水素燃料対応バーナーの開発に着手（2025年完成予定）

● 国内アスファルト合材製造推移・AP台数推移



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

8

3つ目のトピックスとして、APユーザーの現在の商況と日工の脱炭素化社会への取り組みについて説明します

- 我々のお客様である道路舗装会社は、各社2Q時点の受注残高はおおむね2桁増の高い水準の受注残高を抱えています。さらには3Q決算では各社営業利益は増加しており、好調な決算となっています
- 続いて脱炭素化社会への取り組みについて、2050年にCO2排出ゼロを日本は目指すということで、当社もその目標に向け技術開発を一層加速させたいと考え取り組んでいます
- 1つは、中温化アスファルト合材に対応すべく新しい装置を開発しました

これは2050年CO2排出量ゼロへの取り組み以前より、お客様のニーズも非常に高かったものです。現状170℃まで高温加熱したアスファルト合材を工場で製造し、現場に出荷しているのですが30℃程度下げた140℃程度の合材でも施工性の変わらないものにしたというお客様のニーズに対応して作ったものです。これまで10台の納入実績ですが、今後確実に中温化合材を作る装置は普及していくと考えています。

- 2つ目は、カーボンニュートラル燃料対応のための粉体バイオマスバーナーを開発しました  
東日本大震災のあとに震災瓦礫が大量に発生し、お客様からの震災瓦礫を燃料としたアスファルトプラント開発の要望があり開発はしていましたが、より一般的に使えるバイオマス燃料を使用する装置を開発しました。現状は燃料を安定して調達する問題、原料の価格の問題があり、すぐには普及しないかもしれませんが今後に期待しています
- 3つ目は、そもそもCO2を排出しない、アンモニア、水素燃料に対応したバーナーの開発に着手しました。2025年に完成予定としています

● 株主還元の強化

□ 2021年3月期の配当金30円（中間15円、期末15円）  
（配当性向62.6%） 予定



※2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、分割後の配当金額に統一して記載しています  
※当期純利益=親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）

✓ 自己株式取得  
2020年5月25日～2020年9月30日  
（総数80万株（上限） 金額4億円（上限）

9月17日取得完了  
（取得自己株式 616,700株、金額 399,960,700円）

- 株主還元の方針について、現中計期間の19年度から21年度の3年間においては配当性向を60%以上にすることを宣言しています
- 今年度は年間配当額30円を予定しています。昨年度は年間40円の配当を行いました。そのうち20円は100周年の記念配当なので、利益配当でいうと昨年度は20円、今年度は10円増配し30円になります
- 更に今年度は自社株買い約400百万円を実施済みであり、現状の見込みでは総還元性向は84.2%になります

## 株主優待制度



### 株主優待制度を新設

目的：日頃のご支援に感謝の気持ちを表すとともに、当社株式への投資の魅力をより一層高め、より多くのおみなさまに中長期的に保有していただくため

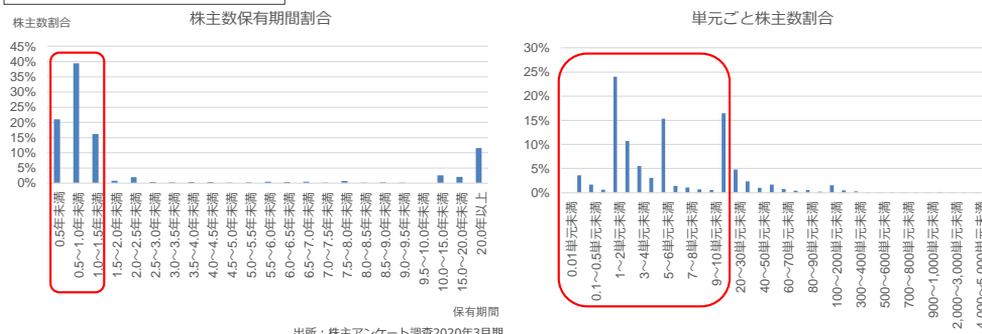
優待品：①当社グループ会社製品「エア-シヨベル」（1本1,000円分と換算）  
②QUOカード（1,000円単位）

握り部・柄管にアルミ合金を使用した業界初の超軽量シヨベル



	保有期間	
	1年以上3年未満	3年以上
500～1,999株	1,000円分	2,000円分
2,000株	4,000円分	8,000円分

### 当社株主の状況（2020年9月末）



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

10

- 株主優待制度を新設したので説明します
- 下のグラフは、株主の保有期間と単元ごとの割合のグラフです。有り難いことに新規株主が、この1年半の間に相当数増えました。新たに株主となっていただいた株主に引き続き継続保有していただくことと、更に新たな株主を呼び込みたいということで株主優待制度を新設しました
- 優待品は当社グループ会社の製品エア-シヨベルとクオカードです。長期保有のインセンティブとして3年以上保有していただくと2倍になります



# 2020年度3Q決算説明

□3Qの決算についてももう少し詳しく説明します

## 2020年度 3Q累計業績ハイライト (1)



- ▶ 売上 : 国内AP製品 (+12.4億円)、BP製品 (▲1.0億円)、日工上海 (▲4.6億円)、輸出 (▲4.7億円)、搬送 (▲3.4億円) その他事業売上 (+1.9億円)
- ▶ 営業利益 : 今期よりタイ現地法人販管費発生、環境搬送売上減少、その他事業破砕機売上減少により減少
- ▶ 経常利益 : 前田道路(株)の特別配当金(+3.4億円)、開発補助金 (0.5億円)
- ▶ 受注 : AP事業 (+29.0億円)、BP事業 (+9.6億円)、環境搬送 (+5.0億円)、その他事業 (+6.4億円)、合計 (+50.1億円)
- ▶ 受注残 : AP事業 (+12.0億円)、BP事業 (+13.8億円)、環境搬送 (+6.1億円)、その他事業 (+5.1億円)、合計 (+37.1億円)

	2019年度		2020年度 (単位: 百万円)					
	3Q実績	3Q (累計)実績	3Q実績	対前年同期比	3Q (累計)実績	対前年同期比	通期予想	4Q予想
売上高	7,422	24,562	6,407	▲1,015 ▲13.6%	24,632	+70 +0.3%	36,500	11,868
営業利益	81	1,040	▲96	▲177 -	904	▲136 ▲13.1%	2,200	1,296
営業利益率	1.1%	4.2%	-	-	3.7%	▲0.5pt	6.0%	10.9%
経常利益	129	1,163	▲89	▲218 -	1,499	+336 +28.9%	2,700	1,201
親会社株主に帰属する当期純利益	▲33	970	▲133	▲100 -	966	▲4 ▲0.4%	1,850	884
受注高	7,034	23,877	9,857	+2,823 +40.1%	28,893	+5,016 +21.0%	38,600	9,707
受注残高	-	12,769	16,479	+3,710 +29.0%	16,479	+3,710 +29.0%	14,318	14,318
為替レート (EUR)	-	122.16	-	-	122.59	-	118.00	127.00
為替レート (RMB)	-	15.82	-	-	15.39	-	15.50	15.90

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

12

□まず全体の数字です。右から2列目に通期予想を入れ、一番右に4Q予想を入れました

□3Qの実績の達成率は、75%からかなり乖離しているのでご心配をされると思いますが4Qの数字は受注残高をこなせば達成しますので、通期は会社計画通りで着地すると予想しています

## 2020年度 3Q累計業績ハイライト (2)



(単位：百万円)

		2019年度					2020年度		通期予想
		3Q実績	3Q (累計)実績	通期実績	3Q実績	対前年同期比	3Q (累計)実績	対前年同期比	
AP関連事業	売上高	3,789	12,456	17,518	3,247	▲542 ▲14.3%	12,774	+318 +2.5%	19,000
	営業利益	▲53	623	1,118	▲105	▲52 -	535	▲88 ▲14.1%	1,250
	営業利益率	▲1.4%	5.0%	6.4%	▲3.2%	▲1.8pt	4.1%	▲0.9pt	6.6%
BP関連事業	売上高	1,722	6,291	9,158	1,274	▲448 ▲26.0%	6,192	▲99 ▲1.6%	9,200
	営業利益	89	386	761	▲25	▲114 -	461	+75 +19.4%	850
	営業利益率	5.2%	6.1%	8.3%	▲1.9%	▲7.1pt	7.4%	+1.3pt	8.7%
環境及び搬送関連事業	売上高	561	1,914	2,634	513	▲48 ▲8.5%	1,572	▲342 ▲17.8%	2,200
	営業利益	174	393	562	94	▲80 ▲45.9%	286	▲107 ▲27.2%	400
	営業利益率	31.0%	20.5%	21.3%	18.3%	▲12.7pt	18.1%	▲2.4pt	18.2%
その他事業	売上高	1,350	3,899	5,840	1,373	+23 ▲1.7%	4,092	+193 +4.9%	6,100
	営業利益	196	644	1,020	188	▲8 ▲4.0%	565	▲79 ▲12.2%	1,000
	営業利益率	14.5%	16.5%	17.5%	13.6%	▲0.9pt	13.8%	▲2.7pt	16.3%
全社費用		▲322	▲1,005	▲1,409	▲248	▲74	▲944	▲61	▲1,300

- ▶ AP関連事業売上高 : 国内製品売上高が対前年同期比+19.3%、メンテナンスサービス+12.3%と伸長し、海外売上高の減少分を吸収し昨年実績を上回る
- ▶ BP関連事業売上高 : 受注は対前年比+15.2%となるものの3Q納入物件少なく売上減少
- ▶ 環境及び搬送関連事業売上高 : 新型コロナウイルスの影響により、代理店の営業活動、ユーザーの設備稼働率が減少し設備入替え需要が減少
- ▶ その他事業売上高 : モバイルプラントが対前年同期比2.8倍など新規事業、製品が大幅増

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

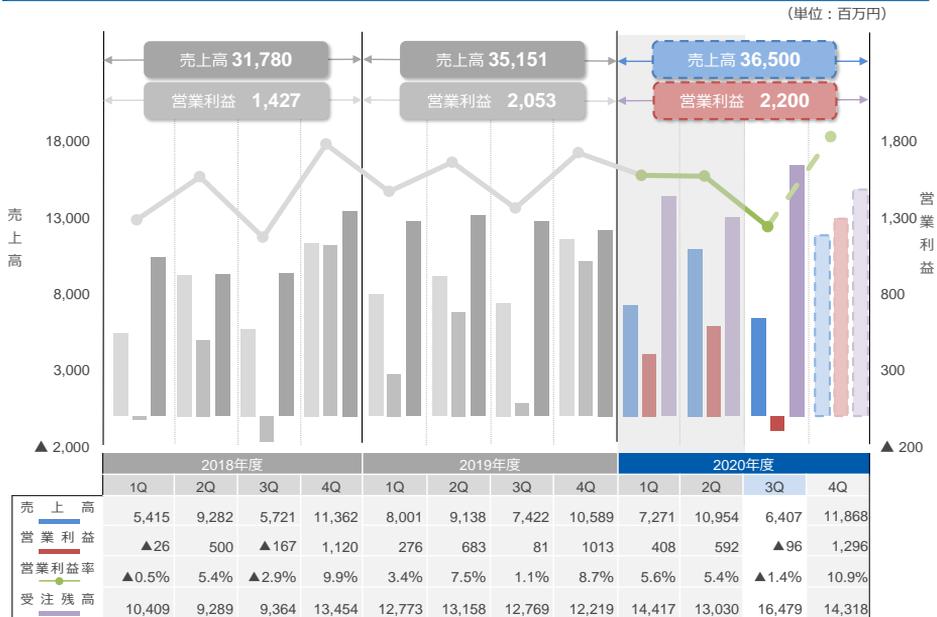
13

- セグメントごとの数字です。3Q時点の数字は右から3列目、2列めに対前年同期比を入れています
- 対前年同期比で三角印がかなり並んでいます
- APは売上は前年より若干増加したものの利益はマイナスとなりました。一番大きな要因は、タイの創業赤字が90百万円以上出ていることです
- BPに関しては、売上は前年より若干減少しましたが営業利益は増益となりました。利益率が前年より高くなりました
- 環境及び搬送に関しては、新型コロナウイルスの影響が出ています。搬送事業に関しては、代理店の活動自体がスローになったこと、最終ユーザーの設備投資が若干低調となったことにより搬送事業の売上が前年より大きく減少しました。それにより営業利益も減少しました
- その他事業では、売上は前年より若干増加しました。これはモバイルプラントの事業が好調に推移しているためです。一方、利益は減益となりました。これは利益率の比較的高い防水板と破碎機の売上が前年より減少しているためです

## 2020年度 3Q業績ハイライト (3)



### 四半期別売上高・営業利益推移



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

14

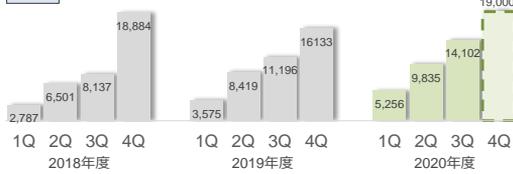
□このグラフは、四半期ごとの売上高、営業利益、営業利益率、受注残高の推移を表したものです

□例年当社の場合、1Qと3Qに売上が少なく2Qと4Qに売り上げ、利益ともに大きく伸び傾向にあります。今年度に関しては1Qは比較的好調でしたが、3Qは特に売上が少なかった関係で期間損益として赤字になりました

4Q予想は売上11,868百万円、営業利益約1,296百万円と昨年、一昨年よりも若干高めの数値ですが注残の状況から、ほぼこの数値で着地するとみています

## 受注高

(累計) (単位: 百万円)



- ▶ 受注高
- ・受注高、前年同期比+25.9%

## (要因)

国内需要が堅調に推移  
中国では来期へ向けて受注・引合は順調に推移  
タイ 12月 1台受注、3月売上予定  
1月 1台受注、8月売上予定

## 売上高



- ▶ 売上高
- ・国内売上高、対前年同期比+14.9%  
(製品+19.3%、メンテナンスサービス+12.3%)
- ・海外売上高、対前年同期比▲22.5%  
(上海▲12.8%、輸出▲89.7%)

## 営業利益・営業利益率



- ▶ 営業利益
- ・営業利益、前年同期比▲14.1%
- ・営業利益率、前年同期比▲0.9ポイント

## (要因)

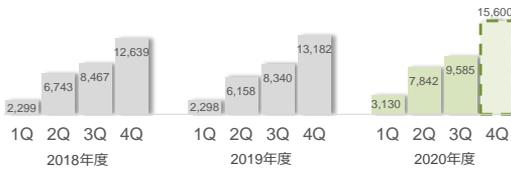
タイ現地法人の販管費、▲94百万円

ここからは各セグメントについて説明の補足をおこないます

- APは受注が3Qまで14,102百万円と前年同期比26%増えました。国内の需要が堅調に推移しています。中国に関しては足元の受注は完全に戻ってきています
- タイはスタートが遅れましたが12月、1月と1台ずつ受注しました
- 売上は前年より微増となりました。国内が好調、海外が低調な状況です
- 営業利益は3Qまで535百万円と昨年より100百万円近くの減益となりました。タイの現地法人の赤字94百万円が一番大きな要因です

国内売上高

（累計）（単位：百万円）



国内

- ・プラント製品、対前年同期比+19.3%
- ・メンテナンス、対前年同期比+12.3%

（要因）

- ・アスファルト原料費安により大手各社業績好調  
設備投資意欲高い状態が続く

海外売上高



海外

- ・対前年同期比▲22.5%
- ・輸出、対前年同期比▲89.7%
- ・日工上海、対前年同期比▲12.8%

※輸出

新型コロナウイルスの収束見えず  
（ロシア・インドネシア）

※Nikko Asia(Thailand)

10月 本格活動開始

海外比率

■ 国内 ■ 海外

（単位：％）

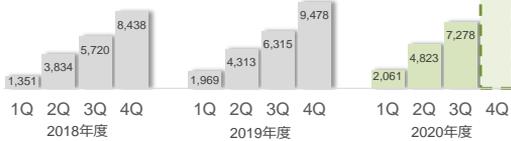


2段目の海外について、説明いたします

- 今年度の海外の売上は前年より3,189百万円と前年より1,000百万円程度売上が減少しました。輸出が約90%減少、日工上海が13%の減となりました
- 輸出はロシア、インドネシアが主な輸出先となるのですが、これらがゼロでした

## 受注高

(累計) (単位: 百万円)



## ▶ 受注高

・対前年比、+15.2%

## (要因)

生コン市場価格の上昇により老朽化設備の更新需要が増え受注増

## 売上高



## ▶ 売上高

・プラント製品、対前年同期比▲3.0%  
・メンテナンス、前年同期比減+1.9%

## 営業利益・営業利益率

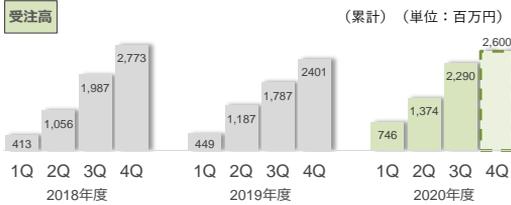


## ▶ 営業利益

・営業利益、前年同期比+19.4%  
・営業利益率、前年同期比+1.3ポイント

- BPは、3Qまでの受注高は前年より15.2%増でした。生コンの価格が上がっており、我々のお客様も損益的には良い状況にあります。老朽化した設備の更新需要が増え受注につながっていると思われます
- 売上高については、プラント製品の売上は若干減少していますがメンテナンスは微増となっています
- 営業利益は前年よりも大幅に増えています。これは営業の努力によりプラントの個々案件の利益率が前年より上がったためです

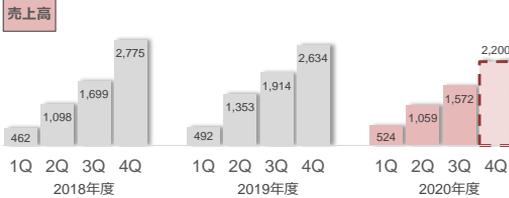
受注高



▶ 受注高  
・前年同期比+28.1%

(要因)  
搬送: JR関係 3.2億  
(バラストストックヤード、新幹線用バラスト  
入替え車両用コンベヤ)  
環境: 石膏系固化材製造設備 1.5億(土質)  
など特殊案件受注

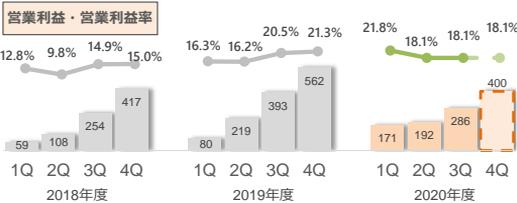
売上高



▶ 売上高  
・前年同期比▲17.8%

(要因)  
・新型コロナウイルスの影響により代理店の営業活動  
減少  
・ユーザーの設備稼働率減少により入替え工事の延期、  
中止、メンテ部品の減少

営業利益・営業利益率



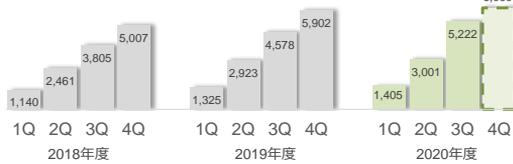
▶ 営業利益  
・営業利益、前年同期比▲27.2%  
・営業利益率、前年同期比▲2.4ポイント

(要因)  
売上高減少の影響

- 搬送及び環境関連事業では、3Qまでの受注は前年より28%増となりました。搬送関係でJR関係、環境で土質改良材に使用する石膏系の固化材の製造設備の2案件大型案件の受注がありました。いずれも売上は来期予定です
- 売上は対前年同期比17.8%の減少となり、それに伴い営業利益も大幅減となりました

受注高

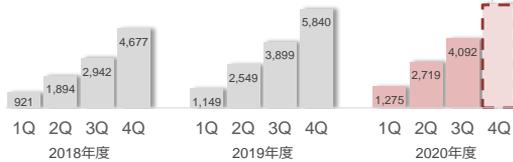
(累計) (単位: 百万円)



▶ 受注高

- ・セグメント全体対前年比+14.0%

売上高



▶ 売上高

- ・モバイルプラント製品前年同期実績226百万円(7台)→627百万円(19台)
- ・防水板、前年は特殊案件あり前年同期比▲12.8%となるものの、特殊案件を除いたベース売上高は前年同期比+75.1%
- ・電力会社向け木材チップ貯蔵供給設備

営業利益・営業利益率



▶ 営業利益

- ・破砕機・防水板の売上減により減少

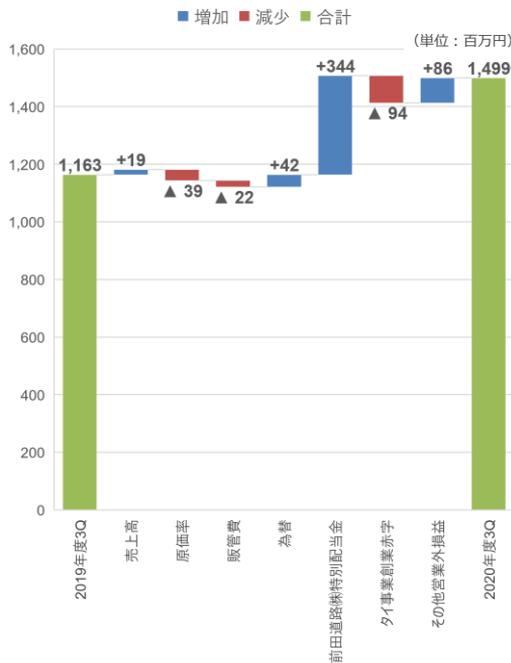
★その他事業の売上構成 (20年度3Q)

仮設機材	31.3%	防水板・水門	18.5%
土農工具	11.9%	モバイル	15.3%
開発製品	1.2%	破砕機	7.0%
		他	14.6%

□その他事業では、受注は対前年比14%増となりました

□売上高は微増に留まりました。モバイルプラント事業が大幅に伸びましたが、それ以外の防水板、破砕機が減少しました

## 2020年度第3四半期 経常利益 増減要因分析



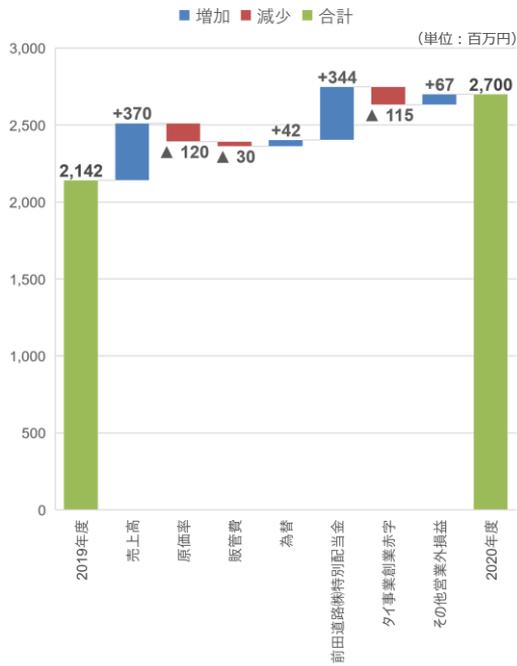
項目	影響額	内容
売上高	+19	売上 +70百万円
原価率	▲39	原価率の上昇 73.0%→73.2%
販管費	▲22	日工上海決算 取り込み時期変更による 減少102百万円 (損益上はプラス影響)
為替	+42	
前田道路(株) 特別配当金	+344	
タイ事業 創業赤字	▲94	
その他営業外	+86	炭化燃料バーナ補助金 (+49百万円)

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

20

- 今年度の3Qまでの経常利益1,499百万円、前年同期が1,163百万円ですので約300百万円増益の要因分析をおこないました
- 売上増の影響はわずかであり、原価率は若干悪化して利益面でマイナス、販管費も22百万円増えました。前年度は海外子会社の決算取り込み時期を変更したことにより販管費が高く出ており、それが今年度はなくなる関係で販管費は102百万円プラスに出てきますが、それを考慮しても販管費が全体で22百万円増えました。為替が42百万円プラス、そして今期の一番の経常利益の増益要因となっている前田道路の特別配当金344百万円あり、タイ事業創業赤字は94百万円、その他営業外が86百万円となりました

## 2020年度通期 経常利益 増減要因分析（予想）



項目	影響額	内容
売上高	+370	売上 +1,349
原価率	▲120	原価率の上昇
販管費	▲30	日工上海決算取込時期変更影響剥落
為替	+42	
前田道路(株)特別配当金	+344	
タイ事業創業赤字	▲115	
その他営業外	+67	

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

21

□ 通期では、経常利益見通2,700百万円、前年の2,142万円から550百万円程度の増益を見込んでいます

□ 特に3Qに出てきた要因に加えて、4Qで新たに出てくるものではありません

## バランスシートの推移



(単位：百万円)

		2019年度3Q	2020年度3Q	増減	増減の主な要因
資 産	流動資産	29,616	30,779	+1,162	増加：受取手形及び売掛金 +443百万円 商品及び製品 +1,239百万円 仕掛品 +372百万円 原材料及び貯蔵品 +350百万円 その他 +253百万円 減少：現金及び預金 ▲2,203百万円
	有形固定資産	7,214	8,674	+1,459	増加：建物及び構築物 +240百万円 機械装置及び運搬具 +331百万円 タイ工場（建設中） +539百万円 繰延税金資産 +260百万円 その他 +151百万円
	無形固定資産	387	538	+151	
	投資その他	7,214	6,452	▲762	減少：投資有価証券 ▲997百万円
総 資 産 合 計		44,433	46,444	+2,011	
負 債	流動負債	11,125	13,226	+2,101	増加：支払手形及び買掛金 +137百万円 ファクタリング未払金 +103百万円 短期借入金 +143百万円 受注損失引当金 +199百万円 その他 +1,372百万円
	固定負債	2,920	3,373	+453	
純 資 産 合 計		30,387	29,844	▲543	増加：利益剰余金 +236百万円 減少：自己株式の取得 ▲385百万円 その他有価証券評価差額金 ▲479百万円
1 株 当 たり 純 資 産 ( 円 銭 )		783.75	780.90	▲2.85	

※当社は、2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております。  
1株当たり純資産は、2019年度連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

22

□BSの推移では、総資産が約20億円増加しました

□流動資産が増えました。売掛金関係も増えていますが、足元の受注が好調で受注残高を多く抱えている関係により棚卸し資産が大幅に増えています。一方で現預金は2,200百万円減少しています

特徴的なこととして有形固定資産が、1,400百万円増えています。工場への積極的な機械関係の投資も行っていますが、今年度ではタイへの投資がこれまでのところ500百万円強ですが、最終的にはタイへの投資は1,200百万円程度になる見込みです

一方で政策投資株の売却は継続して進めており、投資有価証券は約1,000百万円減少しました

□負債の部では特徴的なものはありませんが、その他で1,300百万円増えています。ほぼすべて前受金の増加です。受注が増えている関係で前受金が増えています

純資産は全体で543百万円減少しました。内訳は利益剰余金で236百万円増加、自社株式の取得によるマイナスが385百万円、その他有価証券評価差額金で479百万円がマイナス要因でした



# 参考資料

# 売上高・利益・キャッシュフロー等の推移



(単位：百万円)

	18年度				19年度				20年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
<b>売上高</b>	5,415	9,282	5,721	11,362	8,001	9,139	7,422	10,589	7,271	10,954	6,407	11,868
AP関連事業	2,361	5,472	2,460	6,140	3,917	4,750	3,789	5,062	3,991	5,536	3,247	6,226
BP関連事業	1,671	2,199	1,612	2,410	2,442	2,127	1,722	2,867	1,478	3,440	1,274	3,008
環境及び搬送関連事業	462	636	601	1,075	492	861	561	720	524	535	513	628
その他事業	921	973	1,048	1,734	1,149	1,400	1,350	1,941	1,275	1,444	1,373	2,008
<b>営業利益</b>	▲ 26	500	▲ 167	1,120	276	683	81	1,013	408	592	▲ 96	1,296
AP関連事業	42	373	▲ 132	680	222	454	▲ 53	495	340	300	▲ 105	715
BP関連事業	66	292	23	285	110	187	89	375	88	398	▲ 25	389
環境及び搬送関連事業	59	49	146	163	80	139	174	169	114	78	94	114
その他事業	21	72	115	294	175	273	196	376	171	206	188	435
全社費用	▲ 216	▲ 286	▲ 318	▲ 302	▲ 313	▲ 370	▲ 322	-404	▲ 305	▲ 391	▲ 248	▲ 356
<b>経常利益</b>	87	508	▲ 142	1,123	361	673	129	979	979	609	▲ 89	1,201
親会社株主に帰属する当期純利益	130	434	▲ 2	783	270	733	▲ 33	618	746	353	▲ 133	884

営業CF	▲ 218				3,839				—			
投資CF	▲ 1,021				▲ 639				—			
配当金総額	267	—	229	—	229	—	775	—	775	—	572	—
自社株取得額	0				0				400			

## 事業別受注高と受注残高の推移（累計ベース）



(単位：百万円)

受注高（累計）	18年度				19年度				20年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
AP関連事業	2,787	6,501	8,137	18,884	3,575	8,419	11,196	16,133	5,256	9,835	14,102	19,000
BP関連事業	1,351	3,834	5,720	8,438	1,969	4,313	6,315	9,478	2,061	4,823	7,278	11,000
環境及び搬送関連事業	413	1,056	1,987	2,773	449	1,187	1,787	2,401	746	1,374	2,290	2,600
その他	1,140	2,461	3,805	5,007	1,325	2,923	4,578	5,902	1,405	3,001	5,222	6,000
合計	5,693	13,854	19,650	35,103	7,320	16,843	23,877	33,915	9,469	19,036	28,893	38,600

期末受注残高	18年度				19年度				20年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
AP関連事業	6,784	5,027	4,203	8,808	8,466	8,561	7,548	7,423	8,688	7,732	8,751	7,423
BP関連事業	2,575	2,858	3,132	3,439	2,967	3,184	3,464	3,760	4,342	3,665	4,845	5,560
環境及び搬送関連事業	338	345	675	385	342	219	258	152	373	467	869	552
その他	710	1,058	1,352	820	997	1,194	1,498	883	1,013	1,165	1,553	783
合計	10,409	9,289	9,364	13,454	12,773	13,158	12,769	12,219	14,417	13,030	16,479	14,318

## 設備投資、減価償却費、研究開発費、非財務データの推移



(単位：百万円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 予想
設備投資	292	335	844	815	877	1,261	550	1,889	1,483	1,800
減価償却費	432	389	395	422	487	482	472	508	611	700
研究開発費	239	256	295	276	227	271	291	211	379	350

(単位：人、歳、年)

連結従業員数	775	763	767	796	803	797	807	799	838
従業員平均年齢(単体)	44.2	44.7	43.3	43.1	42.2	42.3	42.2	40.9	41.1
平均勤続年数(単体)	21.5	21.2	20	19.3	18.2	18.5	18.3	16.0	15.8
女性社員数(単体)	28	31	31	33	39	42	42	45	51
新卒採用者数(単体)	13	15	21	21	30	17	19	15	14
新卒女性社員採用数(単体)	1	0	1	3	1	2	0	0	0
女性社員採用割合(単体)	7.6%	0%	4.7%	14.2%	3.3%	11.7%	0%	0%	0%
外国人採用数(単体)	1	0	6	0	0	0	1	1	0
外国人従業員数(単体)	2	2	8	6	6	6	7	8	5
外国人従業員(連結)	92	90	91	95	94	93	101	98	116
海外従業員数(連結)	92	90	91	95	92	91	101	98	123

### 環境負荷軽減新製品

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
新製品名	【砂専用乾燥装置】 【高温予熱バーナ】	【NTB-IIバーナ】	【新型バグフィルタ】	【VPシリーズAP】	—	【フォームAS製造装置】
環境負荷軽減項目	・プラント生産効率UP ・省エネルギー	・省エネルギー ・燃焼領域での 燃焼効率UP	・省スペース ・省エネルギー ・排ガス量低減 ・低騒音	・再生材の 臭気ガス拡散防止	—	・中温化素材の製造対応

# 主要財務データの推移



## 営業利益率・ROE



過去最高  
 売上高 383億円 (93/3)  
 営業利益 27億円 (90/11)  
 ROE(94年増資後) 6.6% (16/3)

(単位: 百万円)

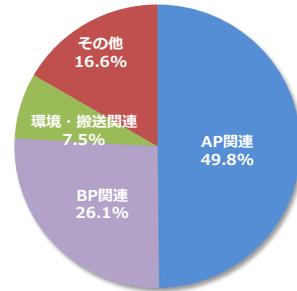
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20/3
売上高	22,157	22,595	23,170	24,307	24,812	24,864	22,175	25,035	26,942	23,856	23,971	23,803	24,553	27,087	32,073	30,707	34,110	32,717	35,114	31,780	35,151
営業利益(損失)	352	536	492	379	248	185	▲ 55	271	189	▲ 98	265	470	541	1,186	2,249	1,832	1,629	1,944	2,103	1,427	2,053
経常利益	201	846	664	688	492	537	350	699	545	482	899	812	621	1,108	1,982	1,582	1,648	1,993	2,239	1,576	2,142
当期純利益(損失)	121	298	▲ 93	▲ 284	567	265	203	315	513	▲ 499	124	461	122	881	888	1,348	1,896	1,340	1,490	1,345	1,588



# 会社情報

会社名	日工株式会社 (Nikko Co., Ltd)	
本社住所	兵庫県明石市大久保町江井ヶ島1013-1	
創立	1919年 (大正8年) 8月13日	
資本金	91億97百万円	(2020年3月末)
連結売上高	351億51百万円	(2020年3月期)
連結営業利益	20億53百万円	(2020年3月期)
海外売上高比率	13.4%	(2020年3月期)
子会社数	9社	(2020年3月期)
連結従業員数	838名	(2020年3月末)
企業統治体制	監査役会設置会社 取締役7名 (うち社外2名) 監査役4名 (うち社外3名) (2020年3月末)	

事業別売上構成比率 (2020年3月期)



※AP=アスファルトプラント  
BP=パッチャープラント(コンクリート)



## 経営理念

日工グループは、「お客様第一主義」を経営理念とし、お客様に真に満足いただける製品とサービスを提供するとともに、広く社会から信頼され、お客様と共に発展する“ソリューションパートナー”となることを使命に、自己変革してまいります。

取締役社長 **辻 勝**

製品展開	生産拠点展開	海外展開	国内グループ展開 (買収・譲渡含む)
1919 創立 トンボ印の農土木工具	1919 本社工場	1994 独ニッコーパーワマーシーネン	1968 市石工業所 (M&A)
1951 コンクリートミキサー ・ウィンチ	1938 産機工場	1997 台湾台北	1971 日工電子工業 (設立)
1956 生コンプラント	1968 東京工場	2001 日工 (上海) 工程機械	1983 日工マシナリー (設立)
1958 アスファルトプラント	1994 幸手工場	2010 山推礎天工程機械	1994 トンボ工業 (設立)
1962 バイブサポート	2004 上海嘉定工場	2020 日エアジア (タイ)	1995 日工セック (設立)
1963 バイブ足場	2014 加古川工場	2020 日エニルコソル (タイ)	2002 新潟鉄工所 (事業譲受)
1966 コンベア・搬送システム	2016 福岡工場		2006 三菱重工業 (事業譲受)
1983 水門			2008 前川工業所 (M&A)
2000 油汚染土壌浄化システム			
2001 廃プラスチック処理システム			
2007 コンクリートポンプ			
2015 破碎機 (輸入販売)			



## 日エグループ経営ビジョン

*n*からはじまる未来創造

アスファルト・バッチャープラントのリーディングカンパニーであり続けます。

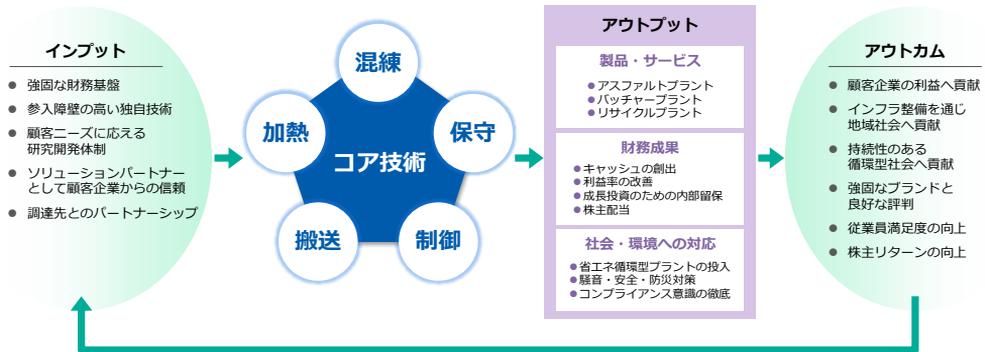
海外事業を拡大しアジアマーケットにおけるNo.1メーカーを目指します。

当社のコア技術「加熱」「混練」「搬送」「制御」をブラッシュアップし事業拡大を行います。

社会貢献できる未来創造企業であり続けます。

代表取締役社長 辻 勝

“街をつくるキカイ”を提供して1世紀。循環型社会の構築に貢献



2020年度予想 売上高 365億円 営業利益率 6.0%



統合レポート2020（及び2021）



ミーティングのご希望などございましたら、お気軽に以下宛ご連絡ください  
(オンラインミーティングも可能です)

TEL 078-947-3141 IR-nikko@nikko-net.co.jp

日工株式会社 財務本部 八軒（はちけん）宛

- 当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。
- 当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しが変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、投資判断を決定する場合には、当資料の将来の見通しのみを依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。
- また、当資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更する事もありますので、ご了承ください。